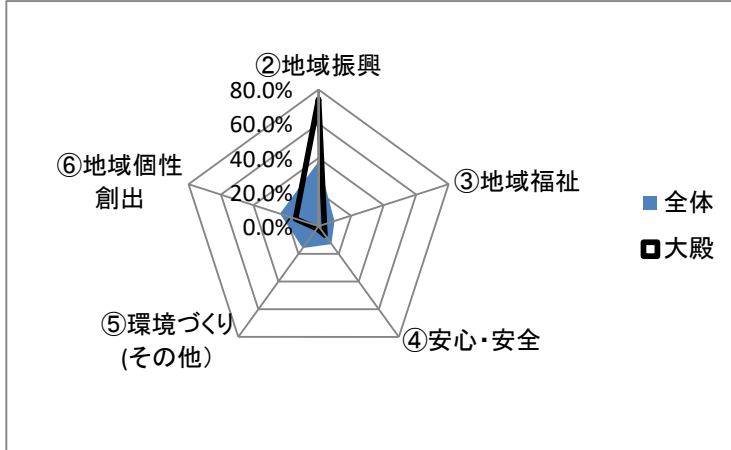


おおどのコミュニティ協議会 地域づくり交付金事業概要(令和3年度)

■地域の情報

地域人口	7,278人	自治会数	29
世帯数	3,317世帯	自治会加入率	88.8%

※数値は、令和4年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,948,000 円
交付金決算額	6,886,192 円
その他収入	1,459,753 円
交付金決算額／配分額	86.6%

各分野の決算

①協議会運営	4,062,673 円
②地域振興	3,184,485 円
③地域福祉	155,824 円
④安心・安全	269,047 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	66,880 円
⑥地域個性創出	607,036 円
決算総額	8,345,945 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

働くところがあり、心豊かに暮らし続けることができるまちづくり

■総括

第5期大殿地域づくり計画の1年目にあたり、コロナ禍での会議の持ち方を模索しながら、各部会の年間事業予定に沿って会議を開き、皆で協力し事業を進めることができた。新規事業として、学校シリーズ：里山の学校と、三世代交流事業：グラウンドゴルフ大会の2つを開催することができた。

基本目標の「働くところがあり」に込めたやりがいやいきがいに繋がるよう、地域住民に幅広い参加を促すタイムリーな情報発信に努めた。また、「チーム大殿」の視点で広報紙一元化し「地域情報みんなのおおどの」として発行した。今後は紙面づくりにも地域の皆さんの声を拾う取り組みを進めていきたい。

引き続き、地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらい、参加してもらい、参画してもらい、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなど、会員が支える事業から住民が参画する事業へシフトしていく仕掛けを検討していきたい。

■分野別事業名

① 協議会運営	・事務局の運営体制
② 地域振興	・地域情報の発信と広報活動事業 ・地域行事の活動支援事業 ・地域コミュニティ推進事業 ・地域コミュニティ推進事業(つながり) ・助成金交付事業
③ 地域福祉	・三世代交流事業 ・健康づくり事業 ・おおどのたすけあいのまちづくり事業
④ 安心・安全	・大殿地区安心安全のつどい事業 ・地域見守り活動事業 ・自主防災活動推進事業 ・反射鏡設置事業
⑤ 環境づくり	・環境整備事業
⑥ 地域個性創出	・伝統文化の保存継承事業 ・体育振興事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	①地域情報の発信と広報活動事業 ②地域コミュニティ推進事業(つながり)	決算額	①666,515円 ② 71,185円
	目的	①地域情報の共有や発信を進める ②新たな人材の巻き込みや地域交流を通じて連携強化を図る		
	実施内容	①ホームページの定期更新。広報紙を一元化し、「地域情報みんなのおおどの」の発行をスタートした。 ②研修事業の実施(庭木の学校4月・10月実施、里山の学校11月、消防出初式の視察研修1月中止)		
	実施時期	①令和2年4月～令和3年3月 ②令和3年4月24日、10月18日、11月3日		
	参加人数	①182人 ②136人		
	成果	①事業の告知・報告のほか、地域の各団体からの情報を発信できた。紙面を通じ、車座トークへの意見や広報紙名称募集など地域の皆さんの参画を促した。 ②研修事業では参加者の学習意欲やボランティア意識の把握ができた。4月・10月に実施した庭木の学校では環境美化活動ができた。新規事業里山の学校は初心者向け登山として企画した。		
	評価	①事業目的の共通理解にたつて年度ごとの「到達点」を明確にし、段階を踏んだ調整を進めていく必要がある。 ②研修事業では新たな参加者を巻き込むための学校シリーズ(多様なメニュー)の検討や、参加者同士の交流を深める工夫も必要。健康維持を目的に参加できるものなど。		
	今後に向けて	①地域の皆さんを巻き込んだ情報発信の在り方を引き続き検討していく。 ②引き続き、地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらう、参加してもらう、参画してもらう、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなど、会員が支える事業から、住民が参画する事業へシフトしていく仕掛けを検討していく。		
②	事業名	地域見守り活動事業	決算額	159,344円
	目的	地域ぐるみで見守り活動を推進する。		
	実施内容	部会と大殿小PTAの共催で第4回見守り関係団体懇談会を開催した。		
	実施時期	部会協議:令和3年12月1日		
	参加人数	52人		
	成果	17団体29人が参加し、テーマ「地域でゆるやかな見守りを拡げていくためのアイデア」や「見守りが必要な箇所」「緊急連絡先とシステムの構築」として、意見交換を行った。危険箇所を地図に落とし込んで情報共有できた。また、見守り活動に参加していただくボランティアの方等に、共通のタスキを作ることを決定した。		
	評価	参加団体が増えていることから見守り活動への期待は高まっている。		
	今後に向けて	「チーム大殿」の視点での懇談会の継続実施。ゆるやかな見守りのルールづくりと実行確保のための協議を深めていきたい。タスキを付けた見守り活動を進める。		

事業名	伝統文化の保存継承事業	決算額	474,243円
目的	地域の伝統文化(祭り)を通して地縁の強化を図る		
実施内容	①地縁の復活を目指して取り組んでいることを実行委員会で共有し、コロナ禍にあってもできることとして、昨年同様「お家で軒先ちょうちんを飾ろう」と呼びかけた。②また、地域のお宝学習会を実施した。		
実施時期	令和3年7月～令和4年2月		
参加人数	①310人 ②150人		
③ 成果	①ちょうちん事業では、軒先ちょうちん100セットの協賛をいただいたほか、飾った写真を送ってもらい、HPで軒先ちょうちんギャラリーとして発信することができた。②学習会事業は「大殿界限今昔物語」(大内文化街道まちなみ協議会発行)冊子を活用した講座を、4回実施した。		
評価	①ちょうちん事業では、コロナ禍にあってもできることをやろうという方針のもと、軒先ちょうちんを呼びかけ地域の皆さんの協力が得られた。LEDライトを使用してもらい、火事が起こらないよう安全に配慮した。②学習会事業では、地域をよく知る人、知らない人、参加した皆さんに興味を持ってもらえた。地域のお宝・魅力を発信する事業として、2年目はまちあるきを計画しており、地域の皆さんの参加が大いに期待される。		
今後に向けて	会員による事業運営から住民を巻き込んだ事業運営にシフトしていくという視点も入れた協議を深めるとともに、参加したくなる募集告知の打ち方も検討していきたい。		